

# 千葉 あいご

Vol.  
75

## Index

- ①~② 変化にどう対応するか コロナ禍に思う
- ③ 支援スタッフ部会報告
- ③ 令和2年度支援スタッフ部会 運営委員名簿
- ③ 令和2年度支援スタッフ部会 機能別委員会への派遣委員名簿
- ④ 新事業所紹介
- ⑤ わが施設の自慢・アピールポイント<sup>®</sup>
- ⑥ お礼
- ⑥ 千葉知協トピックス
- ⑥ 事務局だより・編集後記

第75号 (2020年7月号) 発行日：2020年7月20日 / 発行者：里見吉英 / 編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央4-3-5 カンガルービル4F B TEL 043-224-5721 HP <http://www.chibachiteki.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

## 変化にどう対応するか コロナ禍に思う

千葉県知的障害者福祉協会

会長 里見吉英

新型の感染症によって、北総育成園の利用者が亡くなられました。会員の皆様とともにご冥福をお祈り申し上げます。同園関係者におかれましても強いられたご苦労は如何ばかりかと察します。孤立の中で奮闘された職員の皆様には協会の支援も限定的であったこと、大変申し訳ないという気持ちでいっぱいです。只々、一日も早く平穏な日常が取り戻せますよう祈るばかりです。

また、自らの施設も大変ななかで、食事の提供など支援にあたって頂いた関係施設の皆様には心から感謝申し上げます。

今回の件では自然災害とは異なる難しさを痛感しました。協会としても完全な収束が見えない以上、今後の対応策については関係機関を含め、検討を重ねなければならぬと考えています。

台風などの自然災害とは全く違うと思いが知らされたのは「施設は何をしているのか」と苦情の電話があったと聞いた時です。情報確認のために北総育成園に電話をかけたが、脳裏に蘇ったのは施設整備を進めていた頃のことです。

施設建設を終え、利用者を受け入れてからも地域とは微妙な関係で運営をする難しさ。ことが起これば「職員は何をしている」。同様の経験をしているのは私だけではないと思います。長い期間の交流を経て良好な関係を築きあげたとは聞いていましたが、感染という事態のなかで、地域との関係が一瞬にして瓦解したように感じたことでしょうか。たった一人からの電話でも追い込まれていくときの心理はよくわかります。しかも鳴りやまない電話の対応に追われたというのです。

自らを護れない障害者をおもんばかってのこ

となのか、身近に起こった感染の恐れに慄いたうえでの電話だったのか、深層は判りませんが、職員の受けたダメージは計り知れません。

窮屈な思いをしているのは、予防対策に真面目に協力している万人に言えること。しかし、ただ言われていることをワケもなく従っているのであれば不安ばかりか不満も高じてきます。やがて不満は攻撃性を伴いルールを無視したものの、反論ができないような立場に向かいます。直接の電話だけでなく今や昔と違って簡単にその機会は転がっています。SNSに文字や写真を貼り付けることについて誰かに許可を得るとかお願いをしなければならぬこともありません。責められない立場に身を置いて相手を貶めることで快感を覚えるのでしょうか、いつからこんなことになったのか。それを増長するようなメディアの在り方にも少なからず疑問を感じます。

スケジュールに穴が開いたので報道を見ていると何が真実か不明のまま新しい情報に塗り替えられ、過去は修正されることはありません。時に疑念や不信感も覚えます。若い世代はテレビもあまり見ないようですから、私のような年代層ほど翻弄されやすいのではないのでしょうか。

この件に関し取材も受けました。伝えたかったのは我々が行っている業務の実態です。まず支援現場の日常を知ってもらわなければと話をしました。しかし、投げかけられた質問の数々は記者が考えている根拠の裏付けをとるのが目的になっような気がしたのも事実です。

思い出すのは事業団の事件です。テレビニュースの映像は金網越しの建物でした。あたかも



この道の先人たちは障害のある人たちと生活を共にし、その姿は献身的な行為として映り、時には美化されてきました。まだまだ領域の狭い、障害に光が当たらない時代だったからこ

閉鎖的な施設であるというような印象を与えたかったのでしょうか。  
何かを印象付けるには切り取る場所を変えるだけで簡単にできます。やがて責めるだけ責めて刺激が無くなると何もなかったかのように次のニュースに転換する身替りの速さ。こんな風潮は戒めなければならぬと思います。戒めるといえば自粛警察などというやたら正義を振りかざすような人まで現れる始末。暗い世界への予兆でなければよいのですが。

私たちの仕事は、普段表に出ることはありませんが何かあれば重大事案として取り上げられます。人権侵害・虐待など人間の弱さの一端が社会的弱者に向けられやすいのは周知のこと、特に対象が障害のある方となれば社会は敏感です。しかも税金が投入されているとわかれば納税者はなにをしているのかと当然怒りを禁じえないのでしよう。社会福祉法人への風当たりも皆さん記憶に新しいところだと思います。

何か大切なものがそこにあると評価されていたのでしよう。今では自己犠牲（過去の人はそう思っていないでしょう）を前提とするような働き方（労働時間も関係なく共同体としての仲間意識を前提とした）を今の職員に求めるには無理があります。教職が聖職ではなくなり、公務員に公僕などと言う人は既にいませんが、障害と関わる仕事には過去の美化されたイメージが未だに貼りついているのでしようか。  
我々が担うサービスは一般企業も行えるようになったことにより既に特殊なものでなくなり、またが、社会福祉法人という事業体には社会からの期待が込められています。ですから不祥事に対して社会は裏切り行為とみなすのです。期待はモチベーションになります。負担ともありません。意識しすぎれば、何も起こらないことだけを願う運営することになります。当然、人に関わる面白さや魅力に欠けます。人手不足の状況が続く要因になつてはいないでしようか。

つい先日旅行会社からダイレクトメールが届きました。仕事が全く無くなったため各地の名産品を買ってほしい。「助けてください」現実がひしひしと伝わる紙面でした。私たちの仕事でここまでのようなことが起こるでしようか。給与も下がらず処遇改善等の手立てにより優遇されています。

今回も給付収入に関しては役所が先んじて対応策をとってくれました。このようなことがなかったら自ら他の手段で収入を得ようとしたでしようか。自立支援を生業とする主体が自立できないまま支援を求める。現状に甘えていてよいのか改めて感じたところです。障害福祉サービスの提供体制は多様な事業者の参入により一变しています。事業自体の買収も現実化し、ファックスで売ってくださいとの案内も来る時代です。旧態依然のまま、ぬるま湯につかっただ

までいけば、ゆでガエルになつてしまっています。（カエルを沸騰した湯に浸けるとびっくりして飛び出し生き延びられるが、水に入れてゆっくりに温めると変化を感じないまま茹であがつて死んでしまうという話）  
今でも予防のためにほとんどの人がマスクをしています。白い目で見られないために着けているだけの人もなかにはいるでしよう。意味を考えればマスクの機能が気になるはずなのですが、本来の目的が変わってしまっています。目的を見失った組織も環境変化に対応できず存在さえ危うくなります。  
今や障害福祉サービスは一般企業が営む事業のひとつに変わりなく、新たに参入した事業所は、利用者の確保のための工夫に余念がありません。利用者さえ来てくれれば措置時代より経営の自由度が高く、一般企業が目を付けるのは当然でしよう。  
福祉環境だけでなく、この感染症によつて既に急速な変化がおきています。支援現場にテレワークはありえないとしてもリモート会議などは当たり前になりました。しかし、サービスの売り買いで成立する市場になつたとしても、見えざる手はお金に換算されない福祉の原点だと信じています。ただ、福祉の理念をかざしてもマネジメントが出来なければ、それはただの飾りにすぎませんが。  
緊急事態宣言によつて長い休みを余儀なくされた利用者に電話をすると、再開を待ちわびる声が多かつたと聞きました。変化への対応が苦手な人たちに一番近い私たちのすべきことを改めて感じた期間でもありました。  
協会は会員相互の連携をさらに強化し、利用者を守るために職員を守り、社会の変化に対応し、自信のもてる業界（あえて業界といいますが）にしなければなりません。その道筋を皆さんとともに模索したいと考えています。

支援スタッフ部会報告

コロナ渦中、部会活動を自粛しているところではございますが、各事業所部会代表者の皆様いかがお過ごしでしょうか？

北総育成園の関係者の皆様におかれましては、6月4日に県の終息宣言が発表されるまで、二ヶ月余りに渡り、大変な経験をされ、大変なご苦労をされました。協会事務局より、各事業所の対応、国や県の担当者の対応、近隣事業所からの支援等の状況が配信され、現実を目の当たりにいたしました。いずれもしっかりと対応されており、万が一自分の事業所でそのようなことになった場合、きちんとした対応ができるかどうか不安を感じました。

このウイルスに関しては、症状が出る前から他者に感染させる恐れがあること、私たちの仕事に密接な人間関係と切り離せないこと、また利用者の特性からして、体調不良を訴えることや、安静に静養することが困難な場合が多く、気が付いた頃には、既に事業所内に広がってしまったていことでしょうか。

各事業所の部会代表者の皆様におかれましては、部会活動はひとまず見合わせ、それぞれの事業所の感染防止対策にしっかりと取り組んで頂きますよう、お願い申し上げます。

さて、去る4月3日、令和二年度支援スタッフ部会第一回代表者会議を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大勢の参加は見合わせ、新旧の運営委員のみで開催いたしました。

役員改選の年度でありましたが、鶴岡が引き続き部会長を務めさせて頂くこととなりました。また、2年間お世話になります。よろしくお願いたします。

また、副部会長、事務局長、各ブロック長、

各機能別委員会派遣委員につきましても、表の通りとなりました。今年度はこのチームで部会運営に取り組んで参ります。  
今後の状況により、徐々に部会活動も再開していくことになると思います。その時になりましたら、ご協力をお願い申し上げます。  
ピア宮敷 鶴岡 秀隆

令和2年度 支援スタッフ部会 運営委員名簿

役員	氏名 (施設名)	
部会長	鶴岡 秀隆 (ピア宮敷)	
副部会長 兼 事務局長	藤崎 博文 (上総喜望の郷)	
副部会長 兼 市原・安房・君津ブロック長	阿部 桂佑 (クローバー学園)	
東葛北ブロック長	関根 正敏 (沼南育成園)	宮澤 孝弘 (青和園)
東葛南ブロック長	隅内 大輔 (カメラハウス)	
千葉ブロック長	紅谷 孝徳 (たかね園)	
山武・印旛ブロック長	諸澤 尚美 (十倉厚生園)	
香取・海匝ブロック長	赤澤 侑貴 (聖家族園)	
夷隅・長生ブロック長	佐久間 雅也 (いすみ学園)	

令和2年度 支援スタッフ部会 機能別委員会への派遣委員名簿

委員会名	東葛北	東葛南	千葉	印旛・山武	香取・海匝	市原・安房・君津	夷隅・長生
スポーツ・文化	氏名 岸 達人 事業所 豊四季光風園	星野 堅一 小池更生園	日笠 圭子 エルビザの里	南澤 秀幸 ネクスト名木小	渡辺 桂輔 香取学園	山田 浩也 上総ゆうゆうの郷	秋元 裕規 青松学園
研修	氏名 金村 俊貴 事業所 まつぼくり	長坂 剛毅 大久保学園	鈴木 貴彦 父の樹園	磯田 芳江 かしの木園	上川 絹世 大利根旭出福祉園	川上 賢人 中里の家	清川 紀之 ピア宮敷
広報	氏名 秋山 直樹 事業所 くすのぎ苑	浅川 時嗣 あきつ園	鈴木 俊則 オリーブハウス	石鍋 和久 成田市のぞみの園	菅谷 大輔 北総育成園	友野 真之 袖ヶ浦ひかりの学園	須藤 優太 いすみあかね園
調査研究	氏名 瀧澤 多恵子 事業所 さつき園	本吉 晋太郎 あかね園	秋元 泰明 みらい工房だいち	富谷 宏喜 めいわ	小曾根 歩 佐原聖家族園	内村 圭介 第2クローバー学園	長谷川 努 長生厚生園
権利擁護	氏名 加藤木 琴子 事業所 小金わかば苑	長嶋 祐己 カメラハウス	渡辺 将 畑町ガーデン	吉井 雅貴 ワークかなえ	長谷川 楓 ひかり学園	塚本 貞慶 木更津中郷丸	是枝 志津子 いすみ学園
福利厚生	氏名 名代 京平 事業所 はーとふる	小柴 楓 浦安市障がい者福祉センター	田村 優果 飛鳥晴山苑	伊藤 涼 就労生活さぼーとピース	西村 洋紀 八日市場学園	山口 溪介 千原厚生園	深井 務 みずほ学園
人材確保	氏名 吉田 寛貴 事業所 けやき社会センター	赤沼 圭 ピック・ハート	木ノ上 裕一郎 でいさくさべ	山崎 龍也 ピックシーフォレスト	松本 誠 のさか学園	田代 貴博 クローバー学園	吉野 孝志 ピア宮敷第1工房

# 新事業所紹介

## 社会福祉法人まつど育成会 就労継続支援B型事業所

# キラナ

### 「ほんまもんの福祉サービスを」

社会福祉法人まつど育成会就労継続支援B型事業所キラナは、平成31年4月1日に開所した法人初の単独の就労継続支援B型事業所です。「キラナ」という名称は、サンスクリット語で、「太陽から差し込む光」という意味で、法人の基本理念を軸にした「ほんまもん」の福祉サービスの提供を軸にしています。個々に応じた仕事内容、心身のコンディションに応じた仕事の提供、働くことへの意欲、喜び、やりがいと大切に「ひとりひとりが豊かで人としての尊厳を尊重させて生活が送れる事」を目的に丁寧な支援を進めます。おかげさまで、過去の支援実績から希望者が多く、開設と同時に定員に達しました。

主な仕事内容は、キラナの前身ともいえる地域活動センターひまわりからの受注作業を中心



「ほんまもん」キラナ



地域の要望に応える焼き鳥販売

仕事にできることから持ち帰り専用として建物の前で販売を始めました。店のご主人は、調理員として雇用されました。昼食を担当してもらっています。そのことで、利用者さんの勤務状況にも効果がみられ、プロの料理人が作る毎日の昼食が大人気となり、今までお弁当持参していた方が、「提供するランチを楽しみに事業所に通っています」とご家族からもご本人たちが満足しているとご報告頂いています。

仕事をしておいしいランチを食べてまた仕事を頑張る。そして、週末には自分で稼いだ給料で楽しむという人として豊かな生活を創出しています。

管理者 楯 雅博

に、焼き鳥の仕込み販売を行っています。キラナの建物は、焼き鳥を看板とした地域に人気の店舗でした。改修して現在の建物キラナになりました。店の固定客から焼き鳥を続けてほしいという要望があり、販売を利用者の

## 社会福祉法人ききょう会 ジョイサポート三和

### 「楽しみをつなぎ、参加できる場を目指し」

ジョイサポート三和は、平成23年4月から原市の指定管理制度での運営を経て、令和2年4月より民間移管され、当法人が経営する事になりました。そこで、名称を「市原市三和福祉



ジョイサポート三和外観



調理班による昼食作り

作業所」から「ジョイサポート三和」に変え、新たなスタートとなりました。

事業内容は、引き続き生活介護（定員25名）、就労継続支援B型（定員30名）の多機能型事業所です。また、地域や利用者からのニーズにより、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業を行っています。

各活動については、生活介護では、理学療法士によるリハビリや創作活動・レクリエーションなどを行い、就労継続支援B型では、就労に向けての知識や必要な

訓練として、受託作業のウォーターサーバーの解体・導線のリサイクル作業や調理作業により昼食作りを行っています。

児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業では、発達支援や遊び・運動などを通して様々なプログラムの提供し、日常生活における基本動作の指導や集団生活への適応訓練などを楽しく行っています。どの事業の利用者（児）も笑顔で元気に通所し、活気にあふれている毎日です。

まだまだ、成長途中の事業所ではありますが、今後も皆さまからのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

管理者 古 関 毅

支援スタッフ  
から見た!

## わが施設の自慢・アピールポイント③③

平成20年度から32回にわたり84の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“プチ自慢”です!

### 東葛北ブロック 柏市立青和園

#### 人と人との繋がりを改めて実感

昭和49年に設立された柏市立青和園は、平成23年4月より社会福祉法人桐友学園が指定管理者として運営を行っております。現在、生活介護事業（定員21名）、就労継続支援B型事業（定員29名）の2つの事業を行う多機能事業所として、柏市北部にて活動をしています。

生活介護事業では陶芸、事務機器リユース作業、公園清掃等の作業、就労継続支援B型事業は一般企業からの受注作業の他、園芸作業内で野菜、花等の育成販売や観葉植物のレンタルリースを行っており、日々それぞれの作業班に分かれて活動を行っております。

コロナウィルスが世界中で猛威を振っている中、私どもの活動にも大きな影響がありました。利用者さんの生命、健康を守るため館内の消毒、換気などは徹底し、マスク着用、うがい手洗いの習慣なども、利用者さん自身が真剣に考えてくれており、少しず



青和園施設外観



味わい深い陶芸作品

つですが定着が進みました。外部販売も自粛の影響で減少しましたので、敷地内の販売ブースを拡充し園内販売を行いました。受注作業では企業様との繋がりを大切にしながら作業を継続して行い、各作業班売上の堅持に努めています。

こういった時こそ人と人との繋がりの大切さを感じ、また我々の資源とは何か、地域に何が出来るのか改めて考える事ができました。今後ともよろしくお願い致します。

サービス管理責任者 山口 敦史

### 香取・海匝ブロック 社会福祉法人野栄福祉会 のさか学園

#### 半世紀の歩み、そして新たな一歩を

のさか学園は、一昨年50周年を迎えることができました。歴史と共にご利用者様の生活を支えてくれた園舎も老朽化が散見され平成28年度より、のさか学園住環境改善計画として園舎改修事業を進めております。昨年度は本園舎の約三分の一、男性ご利用者様20名が生活いたします園舎西棟改修工事を令和元年度社会福祉施設等施設整備費補助事業による補助を受け着工し、本年度5月に完了致しました。新園舎での生活が始まる際、ご利用者様の少し戸惑いながら喜んでいただいていた姿が印象深く残っております。支援における住環境の重要性を改めて感じると同時に、ハードに負けないソフト面の強化を図らなければならないと実感しております。また、短期入所定員を増床することができ、今まで以上に地域資源の一つとしての役割を担うことができる施設となったと思います。



のさか学園外観



広々とした新園舎

環境改善計画は道半ばですが、今後歩みを止めることなくスタッフ一同「半世紀の歩み、そして新たな一歩を」をテーマに、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、支えるスタッフ、関係する全ての人たちの笑顔と共に歩んで参ります。

支援員 信田 正義

### 市原・君津・安房ブロック 地域作業所hana

#### 3つの柱で適材適所を目指しています

木更津市にある地域作業所hana（就労継続支援B型）では、内職・縫製・製菓の3つに取り組んでいます。

①内職 英字新聞を活用したバッグや封筒の生産の他、シール貼りや箱詰め、タグの取り付け、雑貨品製造など、幅広い手作業に取り組んでいます。それぞれのご利用者様の特性や得意なことに合わせて作業の割り振りを行っているため、どなたでも作業に取り組むことができます。

②縫製 ポーチやバッグなどの縫製を行っており、その多くは百貨店などで販売されています。縫製と聞くと「ミシン」のイメージが強いと思いますが、実際には生地のカットやアイロン、糸切り、金具付けなどのミシンを使わない作業もたくさんあります。

③製菓 トップパティシエ監修による絶品焼き菓子の製造を行っています。クッキーやパイ、パウンドケーキなど、厨房からは毎日美味しい匂いが漂います。



hana 全景



得意なシール貼り

現在、地域作業所hanaでは、一緒に作業に取り組んでくださるご利用者を募集しています。ご見学も体験もいつでも大歓迎なので、お気軽にお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ】

地域作業所hana（木更津駅から徒歩15分）  
電話：0438-20-3326 メール：info@npo-cw.net  
ホームページ：http://hana-work.net/

管理者 筒井 啓介

# お礼

北総育成園 園長 武井 敏朗

3月27日(金)朝、発熱の利用者が数名出たため香取保健所に連絡。嘱託医によるインフルエンザ検査は全員陰性。同日17時、発熱で休んでいた職員より「新型コロナウイルス検査、陽性」の電話連絡。翌日28日(土)に発熱利用者と全職員のPCR検査が行われ、夜8時過ぎFAXでその結果が知らされた。利用者26名、職員31名が陽性判定。新型コロナウイルス集団感染。「まさか、いったい何が起った!」。天を仰ぎました。この「集団感染」のことは、翌日29日朝刊一面大見出しで全国に発信されました。皆様もそれをご覧になっています。その後も検査は続き、感染者はその数を増していきました。行政関係者の動きは早かった。30日午後、東庄町会議室に国・県・船橋市・香取市・東庄町・医療関係者が参集。その夕方には、当園プレールームに対策本部が置かれました。陽性者が多いことと、この人達(利用者)の特性として新しい環境(入院治療)は困難であるため、今ある環境(施設)を病院化して対応する方針と決定。利用者の居住区を①「レッドゾーン(病院棟)」、その治療を行う医師・看護師・行政職員は②「グリーンゾーン」(対策本部・厨房)、③「セミグリーンゾーン」は北総勤務職員(事務室や防護服更衣室)とゾーニングされ、以後全員陰性化までこの仕組みは維持されました。男性支援員16名の内陰性者は2名。女性支援

員11名の内陰性者は7名。支援員の絶対数が足りません。船橋市の法人本部から8名(男性5名女性3名)が駆けつけてくれました。防護服を装着しレッドゾーンに入り、利用者の療養と支援に向き合う。このことでは家族や周囲の理解を得、二次感染しないよう徹底した対応が必要です。それは北総の職員も同じこと、祈るような気持ちでお願ひしました。

対策本部長の指示のもと、国・県・市派遣の医師、保健師、看護師、事務職員たちがこの期間常駐。感染症と向き合う困難な一日一日は過ぎていきました。3回のPCR検査を経て5月13日に在園全利用者の陰性が確認、2週間以上の健康観察期間を経て、ようやく6月4日に「終息」の報道発表がなされました。

心が折れそうな日もありました。困難な70日間の闘いを助けて下さった千葉県の間、全国から頂いた沢山の励ましの手紙や物資。特に、千葉県知的障害者福祉協会の皆様には具体的に継続的な支援を頂きました。多くの物資の調達に加え、一日3食70名の食事提供は刻み食、ペースト食、介護食も多く必要。菜の花会の小林勉さんが窓口になってくれ、わかたけの外山さん、オリーブの加藤さん、とにかく47日間毎日毎日お世話になりました。

上記のことも氷山の一角。多くの皆様のご厚情の上で、この期間は過ぎていきました。台風や自然災害と違い、自身の安全確保という側面があり本当に難しいご支援であったと存じます。そのことを含めて、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。しかし、大切な人を亡くしました。まだ入院している人もいます。今後、当園の日常を取り戻すにはまだまだ多くの時間が必要です。どうか、引き続きのご支援とご助力を心よりお願い申し上げます。

## 千葉知協 トピックス

### 第20回 全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動がごしま大会

既に報道等でご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、「第20回 全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動がごしま大会」が新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から今年秋には開催せず延期となりました。具体的な開催時期については、未定となっております。

5月から順次開催される予定の千葉県障害者スポーツ大会も陸上競技をはじめとして中止となっている競技もあります。一日も早くこの状況が収束し、日々の練習の成果が発揮できる日が来ることを願っています。

スポーツ文化委員会

成田市のぞみの園 千葉 健彦

### 事務局便り

事務局長 千日 清

感染症が近寄ってくる脅威、全く先の見えない不安。福祉のお仕事は、それでも脈々と続きます。改めて実感、これほど大切な仕事であったことが、皆様のお身体もご自愛くださいませ。

### 編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

今号編集の際、新型コロナウイルスの影響を改めて痛感。当たり前の事が出来なくなる難しさ。そんな中、どこかでできないと決めつけて試してみかけたことが、思いのほか出来た。転んだからこそ掴み取れる可能性。